

長島新聞

逗子市議会報告 Vol. 100

オフィシャルサイトはこちら
<https://www.nagashima-kazuyoshi.com/>

E-mailはこちら
(皆様からの意見お待ちしております)
nagashima_kazuyoshi@yahoo.co.jp

発行責任者：長島一由 逗子市新宿1-4-30
電話：046-890-6713



長島 一由

(ながしま かずよし)
逗子市議会議員 精神保健福祉士
逗子市長(3期)衆議院議員(1期)
フジテレビ報道局政経部記者
リクルートWorks誌編集長等を歴任。
早大卒、東大院、東京藝大院修了
博士(学術・横浜国大)
55歳 A型 家族：妻、長女、次女

今こそやるべき 逗子海岸の花火大会

1 逗子海岸花火大会を早く再開せよ。



花火大会の起源は、江戸時代に飢饉や疫病による死者の慰霊や悪疫退散のためのお祭りの際に花火を打ち上げるようになったことが始まりとされている。

逗子でも夏の風物詩として定着し、市民には欠かせないイベントとなった。

3年連続で中止の逗子海岸花火大会。いろいろと調べたが、本当はやる気になれば今からでもできる。

6月3日の質疑で桐ヶ谷市長は「おそらくは間に合わない」と答弁しているが、中止ありきで真剣に再開を検討していない。

花火の担当所管は、①コロナの三密回避、②花火の調達に難しい。この2点を中止の理由にしている。中止前は2916万円の協賛を集めるなどして5851万円のお金をかけて花火大会をしていた。今からそこまでの資金を調達するのは難しいのはわかる。しかし、事業者に私が確認したところ、花火の調達は可能だという。

自治体によっては再開しているが、市民の多くは日常への回帰と、心に潤いを求めているのではないだろうか。



浮動票の時代

【政策や市政のイロハをともに勉強しませんか】

若い人たちがあまり政治や行政の世界に参入しようとしなくなっているのは、民主主義にとって好ましい事ではありません。
また、「選挙や政策のイロハ」を教えて欲しいというご要望をいただいたことから、かつてやっていた「長島政策研究会」のような勉強会をまずはオンラインで始めました。
2007年に出版した『浮動票の時代』(講談社)に書いたようなことを、時点修正して、一緒に、今の市政や政策作りを勉強しましょう。参加費無料。他市町村の議員選挙に立候補を予定している方だけでなく、司法書士、元放送記者、高校生など多様な方が参加しています。
興味のある方はEメールでご連絡ください。nagashima_kazuyoshi@yahoo.co.jp

POLICY

2 スピードと実行 すぐやるコールの復活を

◆皆さまからのご要望と⇒フィードバック

【事例1】(男性:K-K様)

熱中症対策、マスクで表情が読み取れず情操教育上の問題などから保育園、学校で解除基準を。
⇒4月22日教育委に依頼、5月20日に各校長にヒアリングの上、市独自の基準を6月1日に保護者通知。

【事例2】(ご夫婦:匿名逗子市民)

コンビニで住民票発行できないのはおかしい。他市ではできるのに逗子市民だけできないのか
⇒戸籍住民票に照会、コロナ対策で対面回避のため国の10割補助を活用して、来年3月1日より開始。

【事例3】(女性:街頭匿名)

京急逗子・葉山駅北口に下りのエスカレーター又はエレベーターの設置を求める。
⇒市及び京急行総務課様へ改善要望(回答待ち)。

【事例4】(街頭匿名多数)

逗子市に早期の救急病院の誘致をという要望。選挙時から断続的にあったが、5月10日、11日も。
⇒5月26日、大手医療法人東京本社に相談。立替時には逗子移転の可能性もあるが時間を要するという。

【事例5】(女性:H様)

メキシコ、ベトナムで日本語教師をしてきた。逗子でも外国人向けに教室を開きたい。
⇒5月26日、市民協働部同席の上、逗子まちの先生(ずし市民講師)登録制度をご紹介します。

なお、前回の長島新聞で紹介した逗子郵便局近くのバリアフリー化の陳情は県土木に工事していただくことになりました。時間を要するケースもありますが、「スピードと実行」をモットーにしております。まずはご相談ください。



事例5のご要望をいただいたH様との市役所4階、会議室での面談



【事例6】
(男性:M-Uさん)
視覚障害があり、暗渠で転倒した。盛土及び危ないため歩道設置要望。

5月29日松戸市長選挙応援演説。

